

平成28年度作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部

入学式 式辞

列島を桜前線が北に過ぎるこの日に、ご来賓の方々、ならびに新入生のご家族の皆様のご臨席のもと、若さと希望に燃えた新入生を迎え、平成28年度作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部の入学式を挙げることは、大学・短期大学部教職員の大きな喜びであります。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

晴れて本学への入学を果された皆さんを本日まで慈しみ育ててこられたご家族の皆様のお慶びはいかばかりかと拝察いたします。

また、夢と希望を抱いて母国を遠く離れて、生活習慣、気候風土、言葉の異なるこの地において、勉学と研究に取り組まれる留学生の皆さんを心から歓迎いたします。

作新学院大学は、経営学部、人間文化学部の2学部と、大学院経営学研究科博士課程、大学院心理学研究科修士課程の2研究科を有する、地方の大学としては、学部から大学院まで学べる、特徴をもった人文社会科学系の総合大学です。また、本学には、幼児教育に50年の歴史と伝統をもつ、栃木県で最初に設置された女子短期大学部幼児教育科があります。

作新学院は、明治18年の建学から130年の歴史を有し、掲げる建学の精神は、「作新民」です。「作新民」は、中国の古典「大学」にルーツを持ち、「新しい民を作る」ことを意味します。「新しい民を作る」とは、時代や社会の変化を能動的に捉え、自らの課題とし

て受け止め、その課題を解決する過程において、自分を変えると同時に、社会を変える、そのような能力をもった人材を育成する教育実践の場であることを意味しています。本学学生として、学問を志す皆さんのこれからの大学生活において、「作新民」の精神がよい指針となるよう願っています。そして、本学を学びの場として選んだ皆様は、本日から、知的にも体力的にも最も活力に満ちた人生の昂揚の時期に、この清原キャンパスにおいて、大学生活を送ることとなります。

皆さんのこれまでの目標は、大学に入学することであったと思います。皆さんの次の目標は、「大学で何を、どのように学ぶか」にあります。大学における学習は、皆さんの知的好奇心を刺激し、拡大し、人間社会や自然界の奥にある本質を引き出し、更に未知なる領域に挑戦し、課題解決に向けて実践する力を養うことにあります。本学は教育重視の大学として、既知の事実を単に知識として学ぶだけではなく、これまで考えても見なかったことを思考の対象として自ら事物に接し、そこから新たな知見や方法を創り出し、新たな世界が見えるような自分になることです。そのため本学は、「知識を学ぶだけではなく、実践から学ぶこと」を教育目標としています。学外における体験学習や企業におけるインターン・シップに取り組むことにより実学を学び、大学生としての力量、言い換えれば学士力の育成を図る個性的な教育実践を重視しております。また、本学は所定の単位を取得し卒業により学士の学位を得るだけではなく、学生のキャリアアップ意識の発揚を図るために、公務員、税理士、ITパ

スポーツ等の資格取得試験受験講座を開設し、卒業後の実社会において活躍する人材の育成に努めております。

初代船田周学長は平成元年の大学開学にあたり、本学の姿勢として「小粒でも北関東においてキラリと光る大学」創りを目指すことを宣言しました。爾来、本学は地域に根ざし、地域から期待され、地域の人々に愛される、大学づくりに専心してまいりましたが、そのいくつかを紹介します。

その第1は、平成25年に、栃木県で活躍する4つのプロスポーツチーム：栃木 SC、ブレックス、日光アイスバックス、宇都宮ブリッツェンと連携協定を結ぶとともに、経営学部スポーツマネジメント学科を開設し、人工芝敷設のグラウンド整備を行ったことです。2020東京オリンピック・パラリンピック、2022栃木国体を盛り立て、栃木県を元気にする活動に貢献する人材輩出を目指しています。

その第2は、人間文化学部において、小学校教諭と特別支援学校教諭1種免許状の両免許状を取得し、教員として活躍する人材の養成を行っております。この春には、教職実践センターにおいて実践教育を受けた10名以上の卒業生が学校の教壇に立つこととなりました。また、心理学を基礎として人間の心理臨床的な課題と社会的諸課題の解決にコミュニケーションを通じて貢献する人材の育成を目指しております。

その第3は、女子短期大学部における、幼児教育者の養成です。幼児教育者の必要性が強く叫ばれる中で、栃木県内外の保育所や幼

稚園で働く人材の養成に応えてまいります。保育所や幼稚園、子ども園における幼児教育者にとって必要な専門的な知識や技術を習得すると同時に、子どもを心から愛するヒューマニズムの精神を保育実習等を通じて培い、子どもを真に愛する幼児教育者・保育者となることを期待しています。

その第4は、大学院教育です。経営学研究科は、アカデミックコースにおいて、学部卒業生のみならず海外からの留学生が高度な経営学を学び、ビジネスコースにおいては、作新ビジネススクールにおいて企業等で働く社会人に MBA の資格を授与しております。また、心理学研究科においては、日本臨床心理士資格認定協会から臨床心理士1種教育を行う県内唯一の大学院教育研究機関として認定を受け、これまでに50名を超える臨床心理士を輩出いたしました。

その第5は、地域協働広報センターの活動です。宇都宮市、4つのプロスポーツチーム、栃木県防災士会、地元清原地域振興協議会等との包括的な連携協定を基礎として、防災・減災の活動やスポーツ大会の企画などの地域貢献活動を実施しております。

以上が本学の教育研究の特徴と地域貢献活動を支援する機能があります。入学生の諸君は、これらの学部・学科で学び、センター機能を活用し、実践活動を進められることを期待します。

ところで、大学生の生活は、大学における教育研究の学習だけではありません。本学は、学生が自主的に取組む課外活動を大学教育の一貫と位置づけ、クラブ・サークル活動を支援し、学生時代にしか

できない貴重な体験を奨励しております。スポーツ系や文化系サークルは、全員で一つの目標に向かい突き進み、喜びや感動、悔しさなどを分かち合う、友人との絆を深める重要な活動です。

本学は、学生の学業や部活動の優秀な成果を学業奨励賞、体育功労賞や社会活動功労賞として顕彰しております。たとえば、東日本大震災の復興支援ボランティア活動功労賞の授与や、学生たちが町おこしの活発な活動を行い、経済産業大臣賞に輝きました。その他、地域交流・地域貢献活動への本学学生の積極的参加は社会から高く評価され、学生の問題意識とやる気を引き出しています。新入生の皆さんの活発な活動参加を歓迎します。

今年の6月から皆さんは政治への参加、18歳選挙権の行使が可能となります。一人の自律した社会人としての義務と責任が伴います。ときに、いま日本は、大震災・津波の災禍に加えて原発事故の放射能汚染からの復興・復旧の道半ばにあります。また、少子・高齢化社会の到来は避けがたい現実として進行しております。世界に目を転ずれば、シリア・イラク・トルコにおいて民族・宗派・主権国家による対立が戦争として常態化し、それから逃れようとする多数の人々がヨーロッパ諸国に難民として押し寄せ、その対策に各国が混迷しております。顕在化するテロリズム宗派ISがロンドン、パリ、ブリュッセルにおいて「テロ戦争」を仕掛け、これとの戦いはこれまでの主権国家間の「対称な戦争」とは異なる主権国家群とテロ集団との「非対称な戦い」であり、世界の人々がその対策に苦慮

し、日本の私たちを含めて深刻な不安を抱えています。このように、世界はいま、大きな混乱と膠着のなかにあります。それから抜け出す方向は明確であるとはとても断言できる状況にありません。

しかし、歴史を振り返れば、人類はこのような課題に常に前向きの判断と活動をしてきました。その成果は、必ずしも明るいものばかりではありませんが、私たちは、傍観者としてではなく、これらの課題解決に向けて自分ができる行動をすることが大切です。小さな事であっても自分ができる事を大切に育てましょう。東日本の復興、そして日本の復興のために、自分はどうか役立つのか、元気な日本を創っていくために、社会の中で何ができるのか、という自分自身への問いかけを常にもって、大学生として自らの活動を進めてほしいと願っています。そして、諸君のその努力は、東日本大震災からの復興に日夜励まれている人々と連帯し、また動乱の中で平和を求める世界の同世代の若者との「人間力」の絆に繋がるといっても過言ではないでしょう。

「やればできる！」「一歩前へ！」。これが私の日頃の叫びであります。新入生の皆さんとこの意気込みを共有したいと思います。

新入生の皆さんが、試行錯誤や失敗を恐れず、多くの試練を乗り越えて、それぞれの成果をあげ、この大学で学んでよかった、と実感できるよう、勉学に励まれることを期待し、式辞とします。

平成28年4月5日

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部

学長 太田 周